

学 校 教 育 目 標	心豊かで たくましい 道祖土っ子の育成 ～ 認め合い・学び合い・高め合う ～
目 指 す 学 校 像	○明るく、活気のある学校 ○美しい環境で、仲よく学べる学校 ○保護者・地域に信頼される学校
重 点 目 標	1 さいたま市教育行政に係る子どもの学び方と教職員の教え方の改革を図る。 2 安全・安心な学校生活に向けた取組を実施する。 3 家庭及び地域との協働体制を推進する。 4 安全・安心な教育環境の整備と管理を推進する。 5 教職員の協力体制の確立と教師力の向上を図る。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達 成 度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日 令和8年2月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	◎学校課題研究を軸とした研究主題に迫る子どもの育成と教職員の教え方改革の推進 (現状) ・昨年度の市学習状況調査の結果は、国語は市平均の水準、算数は同水準よりやや下回る傾向が見られる。また、新体力テストの結果からは、子どもの行動体力における各能力に偏りが見られる。 (課題) ・学力面では、「学力の三要素」の更なる育成が必要である。体力面では、運動好きの子どもを更に増やす必要がある。	・市の教育施策に係る授業実践に向けた学校課題研究の推進 ・直接体験を通して、実感を伴うことができる学習活動の実践	①「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」の視点を踏まえた国語・算数両教科の授業研究を、組織を生かして推進する。 ②教育DX推進部を機能させた、子どもの学びを支えるICTの利活用について、研究・実践に取り組む。 ③社会人講師からの直接指導や学校内から場所を変えて行う体験活動を通して、「なるほど、楽しい、できてうれしい」と思える学習・行事を実践する。 ④体育の授業や体育的行事、業間での体力アップに係る取組を通して、子どもの運動時間を確保し、運動する機会を計画的に設定していく。	①子どもの学校評価アンケート項目（授業は分かりやすい、先生は教え方を色々工夫している）が、肯定的な評価における過去三年間の平均値（95.9%、97.6%）を上回ることができたか。 ②教職員及び保護者の学校評価アンケートの該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（42.2%、45.1%）を上回ることができたか。 ③子どもたちの「体験・実感」が得られる教育活動を重視し、社会人講師や民間企業・本市の教育施策事業に係る出前授業等からの直接指導を年間通して10回以上、学校から場所を変えて行う体験活動を年間通して10回以上設定し、実行する。 ④学校評価アンケート該当項目を1の②と同様に教職員（46.4%）及び保護者（33.3%）で評価。	①評価指標の結果は、「授業は分かりやすい」が95.0％で、平均値95.9％との差が－0.9（A評価は70.0％で、同77.0％との差が－7.0）、「先生は教え方を色々工夫している」が97.0％で、同97.6％との差が－0.6（A評価は78.3％で、同差が－3.0）であった。 ②評価指標の結果は、教職員が49.0％で、差が＋6.8、保護者が47.2％で、同＋2.1であった。 ③出前授業、外部講師を派遣しての授業は、2月末日時点で、38回実施。学校以外を使った地域施設等を活用した活動は17回実施。特に、今年度は外部講師として県弁護士会からスクールロイヤーを11名招聘し、5年生の国語の授業実践に参画していただいた。 ④評価指標の結果は、教職員が46.3％で、差が－0.1（肯定的評価は100％で、同差が＋2.0）、保護者が41.1％で、同＋7.8（肯定的評価は92.7％で、同差が＋0.7）であった。	A	①子どもによる「学習者の視点」から授業を評価する「学びの指標」における、本校教職員と本市教職員平均の数値の比較では、「主体的な学び」が＋0.13、「探究的な学び」が＋0.06、「ICTの効果的な活用」が－0.08、「基礎的な授業スキル」が＋0.09と、「よい授業」が実践されていることがかえる。 ②今年度から取り組む新たな学校課題研究テーマと教育DX研修を更に融合させ、次年度も子どもの実態に即した新たな学びの研究と修業に、全職員で実施していく。 ③引き続き、子どもの気付きや意欲を重視した「体験・実感」の伴った学習活動を推進するために、地域に開かれた教育課程を編成していく。 ④体育的行事や業間を使った運動体験の場・時間の設定は勿論、体育の授業では運動量の確保と、運動する喜びが味わえる活動となるよう、工夫・改善を図っていく。また、本校の子どもたちの体力の実態に即して、主・補助運動を工夫していくことが必要である。	・教育DX推進校として実践してきた関係中学校からは「デジタルかアナログか」ではなく「それぞれの長所をどのように授業に取り入れていくか」が重要なことと伝えられた。小学校低学年は、鉛筆でしっかりと文字を書くという活動が重視されなければならないし、高学年では中学校の授業スタイルに向けて、PC操作や文字入力スキルは必要とされてくる。子どもの実態に即して、使用する目的を明確にしていくことが重要であろう。 ・出前授業38回の実践は素晴らしい。スクールロイヤーが参画した国語の授業を参観したが、社会人講師や専門家を生かした授業になっていて、大変参考になった。
2	◎子どもの健全育成に向けた取組の実践 (現状) ・過去2年間の市学習状況調査における「学校に行くのが楽しい」の項目に、肯定的に回答した子どもの割合は、市平均の水準より上回る傾向が見られる。 (課題) ・子どもの学校評価アンケート項目（学校は楽しい、思いやりの心を大切にしている、仲のよい友達がいる）のA評価の過去四年間の推移が、下降傾向にある。	・子ども同士のかかわりを大切にした活動と心のサポートに努めた活動の実践 ・子どもの自尊意識を高める取組の実践	①子ども自らが、人とかかわることのよさ・楽しさが味わえるよう、同学年・異学年合同による学習や活動、学校行事を、計画どおりに実践する。 ②いじめ撲滅強化月間での取組や道德教育の推進を通して、子どもの心の健全育成に努める。 ③子ども同士の人間関係を構築し、深められるよう、人間関係プログラムや特別活動の授業を核として、互いが認め合える活動を重視し、計画的に実践する。 ④個々の自信が高められるよう、学級・学年内における係・当番・役割における取組を充実させ、適宜・適切に評価していく。	①子どもの学校評価アンケート項目（児童会活動は楽しい、仲のよい友達がいる）の、過去三年間のA評価の平均値（67.3%、91.9%）を上回ることができたか。 ②上記①と同様の評価を、子どもの学校評価アンケート項目（思いやりの心を大切にしている；75.4%、学校は楽しい；67.2%）で行う。 ③さいたま市学習状況調査における「自分には、よいところがあるか」で、今年度の肯定的に回答した子どもの割合が、市平均より上回っているか。 ④子どもの学校評価アンケート該当項目を2の②と同様に「係や当番の仕事に進んで取り組む」（60.1%）で評価。	①評価指標の結果は、「児童会活動は楽しい」が72.1％で、平均値との差が＋4.8（肯定的評価は93.5％で、同差が＋2.5）、「仲のよい友達がいる」が89.3％で、同－2.6（肯定的評価は98.8％で、同差が＋0.8）であった。 ②評価指標の結果は、「思いやりの心を大切にしている」が72.3％で、平均値との差が－3.1、「学校は楽しい」が69.0％で、同＋1.8であった。 ③評価指標の結果は、本校の平均が94.1％で、同市平均との差が＋4.1、昨年度の本校平均との差は、＋2.6であった。また、同調査「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」の同平均が94.5％で、同市平均との差が＋0.6、昨年度の本校平均との差は、－2.2であった。 ④評価指標の結果は、57.0％で、平均値との差が－3.1（肯定的評価は94.0％で、同差が＋1.5）であった。	A	①月1回の異学年活動、低学年間での交流学習等、本校は異学年交流をよく行っている。引き続き、子ども同士のかかわりを大切にした学習や活動を、今後も継続していく。 ②本校では、11月に「いじめ撲滅強化週間」を位置付け、いじめの未然防止と心を潤す4つの言葉の推進に向けた取組を行っている。引き続き、講話朝会等で、「いじめをしない、させないクラス」となる取組と評価会子どもたちにさせていきたい。 ③心と生活のアンケート結果から教育相談の対象になった子どもたちを中心に、個々のも課題をよく理解しながら、その課題に寄り添ったかかわりを行っていく。 ④各学級や学年、委員会・クラブ活動等、子ども自らが行う活動は、本人のめあてとその出来栄について評価することを繰り返し、教師と子ども、子ども同士が称賛し合い、認め合える人間関係を、継続して構築していく。	・我が子に対する学校や担任の先生方の対応には頭が下がる。学級には何人子どももいて他の子どもたちにも関わらなければならない中、「ここまで丁寧に寄り添ってくれるのか」と思うくらい家庭との連絡を密に行ってくれている。また、担当クラス以外の子どもたちに対して、多くの先生方がたくさん関わっている場面を垣間見るたび、先生方の献身ぶりに頭が下がるばかりである。
3	◎保護者・地域社会との連携強化と本校の教育活動に係る計画的な情報発信 (現状) ・学校運営協議会において、昨年度の熟議から「自ら進んで、あいさつができる子どもの育成」を掲げ、三者合同による取組が行われた。 ・S S Nがしっかりと組織されており、円滑に機能している。 (課題) ・学校HPも含めた自校の情報発信が、停滞している。 ・地域の施設・人材や地域教材を、今後も更に活用していく必要がある。	・保護者・地域との連携事業の推進 ・本校の教育活動や学校の取組等に係る、積極的な情報発信	①昨年度の運営協議会での成果を進化・発展させ、「子どもに更に身に付けさせたい力の育成」に向けた新たな手立てや取組を検討し、実践に繋げる。 ②地域に開かれた教育課程の推進に向けて、今後も地域の教育素材を生かした教育活動を、計画的に実践していく。 ③本校の教育活動の様子を、学校HPを活用し、保護者・地域に積極的に情報発信していく。 ④学校からの各種たよりや学校安心メールを生かして、適宜・適切に、必要な情報提供を行っていく。	①家庭・地域で取り組む手立てを一つ以上設定し、実践に移すことが検討され、取り組みに至っているか。また、三者での新たな取組が設定され、実現化されたか。 ②教職員の学校評価アンケートの該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（35.7%）を上回ることができたか。 ③④各種配信内容を、計画どおりに配信することができたか。学校HPでは、各学年の授業内容や学校行事における子どもの活躍の様子を、年間10回以上情報発信することができたか。また、保護者の学校評価アンケートの該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（54.0%）を上回ることができたか。	①今年度は「地域が目指す子ども像」の中から「さらに、自分から挨拶ができる子どもの育成」を目指して、家庭・地域で取り組む活動を計画し、実行に移してもらっている。また、学校を含めた三者が連携した新たな取組を設定し、実行に移す計画を進めている。 ②評価指標の結果は59.2％で、平均値との差が＋23.5（肯定的評価は95.9％で、同差が＋7.6）であった。 ③④不審者情報や学級閉鎖の連絡の他、校外学習について、活動の様子や到着時刻の報告等、保護者のニーズに合わせた情報を提供した。（例：5・6年の宿泊行事は計34回、他学年の校外学習19回送信）また、情報掲載アプリを活用し、学校から配信する便りを、デジタル配付で行うようにした。評価指標の結果は56.4％で、平均値との差が＋2.4であった。	A	①子どもの学校評価アンケート項目（友達、先生、地域の方）自分から挨拶していますか）のA評価が、今年度52.0％で、昨年度の差が－3.0、同保護者アンケート（我が子の家庭内でのあいさつと地域の方との挨拶）のA評価が今年度43.2％と26.8％で、同比較＋0.3と＋1.2、同教職員アンケート（子どもは進んで挨拶ができているか）のA評価が今年度10.2％で、同比較－22.8であることから、継続した取組が必要である。 ③④学校だけでなくデジタル配付と学校安心メール、並びに学校HPの更なる利活用の両輪を軸に、引き続き、本校の情報発信が効率かつ効果的にでき、保護者、地域の方の閲覧状況がよくなるよう、検討・工夫を重ねていきたい。	・三者一体のあいさつ運動はとてもよい取組で、挨拶を推進させる効果もある。これを継続して行っていくことが、今後も必要ではないだろうか。 ・地域と子どもたちの触れ合う場・機会が少ないことに、危機感を抱いている。各自治会では趣向を凝らして、様々な取組を行っているが、行事を増やす必要があるかもしれない。また、登下校の見守り活動を通して子どもたちとの触れ合いを大切にできているが、下校時が通学班ではいまだに、子どもが分散される際の対応として、協力人員の視点から課題がある。 ・育成会主催の「三世代ふれあい広場」では、学校から安心メールを、前日・当日と配信してくれたことで、参加者の増加につながった。学校評価の数値が低いことが気になるので、広報活動を工夫することも重要だと考える。
4	◎安全・安心な教育環境の整備と管理 (現状) ・施設・設備の故障や瑕疵は無くならない中、危険個所の早期発見及び修繕を徹底し、安全・安心な教育環境に努めている。 ・子どもたちが落ち着いて学習に集中することができるよう、学級・学年経営を基本とした「好ましい学習集団」の形成に努めている。 (課題) ・数年間の大幅な人事交流を受けて、授業や学校生活における事故防止についての事例研修会を継続して実施していく必要がある。	・修繕案件の早期解決の実現と瑕疵による事故防止の徹底 ・校内で安全に学習・生活することができる取組の実践	①修繕対応が発生した時は、関係機関と早急かつ緊密な連携を図り、解決を図る。 ②教職員間の安全点検では、報告・連絡・相談・確認・見届けの徹底から危険個所の早期発見に努め、覚知後はその都度、素早く解決を図る。 ③子どもたちの基本的な生活習慣や集団生活におけるルールが定着できるよう、月別生活目標の取組を中心に指導する。 ④危機管理対応マニュアルに即した学習環境の安全確認と教職員の複数体制による学習指導を実施し、事故防止の徹底に努める。	①②未修繕案件の設備の完了と新たな施設設備の瑕疵による事故を起こさない。 また、教職員及び保護者の学校評価アンケートの該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（43.3%、41.5%）を上回ることができたか。 ③子ども、教職員、保護者の学校評価アンケートの該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（71.8%、21.0%、63.3%）を上回ることができたか。 ④教職員の学校評価アンケート該当項目のA評価が、過去三年間の平均値（40.5%）を上回ることができたか。	①②2学期末までの修繕対応（排水溝からの汚水流出2回、樋のつまりによる水漏れ2回、給食室の排水溝清掃1回、排水溝の異物混入による除去と詰まりの解消3回、トイレの修繕2回、修繕したことによる追加修繕2回、空調設備4教室設置、空調工事2回）を迅速かつ適切に行ってきた。危険個所の早期発見と瑕疵による事故ゼロを、引き続き継続していく。評価指標の結果は、教職員が69.4％で平均値との差が＋26.1、保護者が46.5％で、同差が＋5.0であった。 ③評価指標の結果は、子どもが67.4％で、平均値との差が－4.4（肯定的評価は95.7％で、同差が－1.2）、教職員が22.5％で、同＋1.5（肯定的評価は91.9％で、同差が＋5.1）、保護者が62.5％で、同差が－0.8（肯定的評価は97.7％で、同差が＋0.7）であった。 ④評価指標の結果は42.9％で、平均値との差が＋2.4（肯定的評価は98.0％で、同差が＋15.7）であった。	A	①②創立50周年を過ぎ、校舎・運動場・体育館設備の老朽化と経年劣化が激しく、痛みや故障の発生ごとに修繕対応しているのが現状である。今後も、安全点検の結果だけでなく、きめ細かく校舎内の安全確認を行いながら、瑕疵や劣化箇所を積極的に覚知していくことが必要と言える。 ③④本校の過去の実験事故の反省に立ち、理科・図工・家庭の3教科で安全管理が特に必要な活動については、必ず複数体制の人員で教育活動にあたるよう、計画・実行に至った。次年度も、授業や学校生活における事故防止（救命救急、アレルギー対応、不審者対応等）についての事例研修会並びに教職員の服務に係る研修会を、回数だけでなく内容の充実も図りながら実施し、教職員の高い危機管理意識のある職務遂行の継続を図っていく。	・空調を含めた設備の老朽化や故障は、学校だけの問題とは言えない。地域としても子どもの成長の手助けを一生懸命行っているのでも、今後も教育行政に働き掛けて、子どもの安心・安全な環境づくりに支援していきたい。 ・校庭開放団体として学校の施設をお借りできていることに感謝している。ただ、50年も経過すると様々な箇所には瑕疵が出てくるのは当然であり、借用する側も使い方の問題で設備の故障や破損につながってしまっている現状もある。これまでも問題が発生するごとに学校に早急に連絡して対応してくださっているのでも、今後も連携を図っていきたい。
5	◎教職員一人ひとりの「働き甲斐改革」の推進 (現状) ・市の勤務に関する調査において、「職場の協力体制が整っている」「仕事にやりがいを感じている」の項目が市平均の水準より上回っている。 (課題) ・国・本市の教育施策や教育的課題に、本校教職員も正対し、教育界の「不易と流行」に対応できるように、引き続き教育公務員としての資質・能力を高めていかなければならない。	・基礎体力と機動力のある教職員組織の実現 ・教職に係る実践的な専門性の向上	①各主任がリーダーシップを発揮し、業務遂行に係る調整・準備・解決方法などを自ら考え、適切に判断し、組織を生かして協働しながら実行できる職員体制を整える。 ②互いに意見を出し合える相談体制の整った、風通しのよい職場環境に努める。 ③学校教育目標実現のための月別重点目標を設定し、教職員一人ひとりが教育活動に目的と手立てをもって、「PDCA」を実行できるようにする。 ④教職員の学校評価アンケート項目のA評価が、過去三年間の平均値（22.3%）を上回ることができたか。	①②教員等の勤務に関する意識調査の項目「やりがいを感じている」の数値と「協働し合う体制が整っている」「風通しのよい職場である」のA評価の値が、昨年度よりもそれぞれ＋10％（241→265、19.35%→21.28%、16.13%→17.74）以上を達成する。 ③教職員の月別重点目標におけるA評価の総合平均値が、1学期の数値と比べて、年間で＋10％以上を達成する。 ④教職員の学校評価アンケート項目のA評価が、過去三年間の平均値（22.3%）を上回ることができたか。	①②評価指標の結果は、「やりがいや満足感を感じている」が96.0％で昨年度との差は±0（市平均比較＋2.0）、「協働し合う体制が整っている」が44.90で＋25.55（同比較＋10.58）、「風通しのよい職場である」が36.73で＋20.60（同比較－3.64）であった。また、教職員の学校評価アンケート「職場の協力体制」の該当項目のA評価の結果は45.3％で、昨年度との差は＋15.3であった。 ③評価指標の結果は、1月末段階でのA評価の総合平均値が56.8％で、昨年度から＋7.3であった。 ④評価指標の結果は57.1％で、平均値との差が＋34.8（肯定的評価は95.9％で、同差が＋29.9）であった。	A	①②本校の強み（よさ・特色）として、「教職員間の支援体制の充実」が挙げられる。この強みを生かして、仕事量の軽減と働きやすさの向上に努めていくことが、仕事のストレス感を減らし、教職員の健康リスクの少ない職場環境に、更に変えていけると考えられる。また、更なる「仕事へのやりがい」が「教育活動の充実」につながるかと考えられる。 ③④授業研究会は学校課題関連では、年間14回実施。その他、年次研究を含めた授業研究会は、10回実施した。その結果、教職員の「学習指導に係る質の向上」に係る教職員学校評価アンケートの該当項目のA評価の平均が50.0％で、過去三年間の評価の値が少いことが重要だと感じた。また、家庭における読書の量が少ないことが学校評価の課題として挙げられているので、家庭での読書量を増やしながら、学校と共に子どもの読解力を育んでいくことが重要だと感じた。	・中学校ではDXの次のステージとして「教育AI」を授業に生かしていくことを模索している。その際、これまでICTの活用ばかりが重視されてきたことから、今後は、生成AIが伝えようとしていることをしっかりと理解し、正しく読み取ることでできる力を求められていることが分かってきた。そこで、「読解力」の育成が今後の課題を捉えと捉えており、小学校でも課題として挙げたい「読書活動の充実」は、今後も重視していく取組であろう。 ・保護者が、中・小それぞれの授業を参観する度、授業のスタイルが全く違うことに驚かされる。タブレットの使い方も小・中で全く異なるので、保護者もタブレットのこをより理解しておくことが重要だと感じた。また、家庭における読書の量が少ないことが学校評価の課題として挙げられているので、家庭での読書量を増やしながら、学校と共に子どもの読解力を育んでいくことが重要だと感じた。

